

利尻島のキノコ(2)

佐藤清吉*・佐藤雅彦**

〒078-1761 上川町旭町58-4 上川キノコの会会員*

〒097-0311 利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館**

Mushrooms of Rishiri Island in Hokkaido (2)

Seikichi Sato* and Masahiko Satô**

A member of Kamikawa Fungus Club, 58-4 Asahi-machi, Kamikawa, Hokkaido, 078-1761 Japan*

Rishiri Town Museum, Senhoushi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan**

Abstract. Mushroom fauna of Rishiri Is., northern Hokkaido, Japan, is additionally reported. In this study, thirty nine species belonging to 34 genera in 20 families are newly recorded from Rishiri Island.

はじめに

前回、筆者らは50科133属212種のキノコを利尻島より報告した。今回は1998年における調査によって新たに発見されたキノコ20科34属39種を報告する。五十嵐恒夫先生(北広島市)、吉見昭一・上田俊穂両先生(京都)には調査や同定などで大変お世話になった。ここに深くお礼申し上げたい。

凡例

- ・科名の配列は今関・本郷(1987, 1989)に主に従い、種の配列は属名のアルファベット順とした。
- ・和名、学名は主に今関・本郷(1987, 1989)に従ったが、それ以外のものは末尾肩に文献番号をつけた。
- ・標本類は利尻町立博物館(RTMFU)と佐藤清吉(SSC)がそれぞれ保管する。

利尻島産キノコ目録(追加)

ヒラタケ科

トキイロヒラタケ

Pleurotus salmoneostramineus L. Vass.

RTMFU419; 柄は殆どなく、広葉樹、特にハリギリ、キハダ枯木に重生する。毎年続けては出ない。薄いピンク色だが日に当たると白くなる。食用。

スエヒロタケ

Schizophyllum commune Fr. : Fr.

RTMFU420; 一般的には枯木に重生するが、堆肥に付いていたこともある。胞子は人の肺に入って悪さをするとされているので用心した方がよい。食毒不明。

キシメジ科

ヤグラタケ

Astrophora lycoperdoides (Bull.) Ditm.: Fr.

SSC; クロハツ、クロハツモドキ等の朽ちかけた

カサにしっかりと立つ。食べたいとは思いませんね。食毒不明。

クロホテイシメジ

Clitocybe avellaneialba Murr.

SSC; クロと言っているが濃い灰色でホテイシメジにそっくり。食毒不明。

タマツキカレハタケ

Collybia cookei (Bres.) J. D. Arnold

RTMFU435; 普通の人なら目に付かない小さなキノコ。朽ちたキノコに生ずるが、根元に小さな玉がある。食不適。

ヒナノヒガサ

Gerronema fibula (Bull. : Fr.) Sing.

RTMFU458; 食用には向かないが、よく見るとかわいキノコだ。食不適。

ウマノケタケ

Marasmius crinisequi F. Muell.

RTMFU427; こんなに小さくてもキノコかと思うほど小さい。柄は荷札の針金並。食不適。

テングタケ科

テングタケ

Amanita pantherina (DC. : Fr.) Krombh.

RTMFU470; 黒くても赤くてもカサに白いパッチ(綿をちぎって付けたような点々)が付いていると毒キノコとわかっている人が殆どだが、中には奥さんの止めるのも聞かずに食べて救急車で運ばれた人もいる。子猫は一口食べてすぐ腰が抜けたがどうやら死ななかった。強い毒。

ウラベニガサ科

オオフクロタケ

Volvariella speciosa var. *gloiocephala* (DC. : Fr.) Sing.

RTMFU421; 肥沃な地面から生ずるがカサは黒っぽく、柄にツバがなく、ツボは大きく開いて白い。食用だがよく知っている人に聞いてからにしてください。

ハラタケ科

ザラエノハラタケ

Agaricus subrutlescens (Kauffm)

SSC; ハラタケ類のヒダは初め、薄いピンク色から次第に黒くなるのが特徴だ。柄にササクレがある。ヒダが黒くなると食べる気にならない。食毒不明。

フウセンタケ科

ツバフウセンタケ

Cortinarius armillatus (Fr. : Fr.) Fr.

RTMFU454; このキノコは中より大きく、たくさんあればいいのだが、たまーにしかないので食べるまでに至っていない。食用。

ツバアブラシメジ

Cortinarius collinitus (Sow. ; Fr.) Fr.

RTMFU467; カサはどうみても美味しそう。柄の模様が褐色の環を何段か付けることで見分けられるので、ご安心。食用。

クロトマヤタケ

Inocybe lacera (Fr. : Fr.) Kummer

RTMFU448; 食欲をそそるキノコではない。トヤマとは草で作った屋根のことだそう。毒。

チャヒラタケ科

チャヒラタケ

Crepidotus mollis (Schaeff. : Fr.) Kummer

RTMFU432; 柄がなく朽木に生ずるキノコ。小さく食べる対象のキノコではない。食毒不明。

オウギタケ科

オウギタケ

Gomphidius roseus (Fr.) Karst.

RTMFU456; 丸山型のキノコで針葉樹林にアマタケと一緒に生ずる。美味しい。食用。

イグチ科

ドクヤマドリ

Boletus sp.⁵

RTMFU468; トドマツの根元に生ずることが多い。色や形で食毒を判断することはできない毒らしくないキノコ。毒。近年、*B. venenatus* と命名されたようである。

コウジタケ

Boletus fraternus Peck

SSC; あまり大きくないキノコで、柄に赤い線が縦に並ぶ、地は黄色い。食用。

シロヤマイグチ

Leccinum holopus (Rostk.) Watling

SSC; ヤマイグチと形は同じだが、カサの色が白い。カンパ類の林に生ずる。食用。

キンチャヤマイグチ

Leccinum versipelle (Fr.) Snell

RTMFU 465; 肉も柄もしっかりして、茹でて刺し身が美味しく、優雅に食べたいものだ。食用。

シロヌメリイグチ

Suillus laricinus (Berk. in Hook.) O. Kuntze

RTMFU 472; 「シロ」というから白と思うが、天気の良いときはカサの色が暗茶色のことが多い。ハナイグチは採られても、このキノコは残っている。ラクヨウより身は少し柔らかいが美味しい。食用。

ゴヨウイグチ

Suillus placidus (Bonorden) Sing.

SSC; 五葉松の木の下に生ずる。食用。

オクヤマニガイグチ

Tylopilus rigens Hongo

RTMFU 443

ベニタケ科

ケシロハツモドキ

Lactarius subvellereus Peck

RTMFU430; 針葉樹広葉樹の混交林に多く見られ

る。幼菌の内からカサに落ち葉をいっぱい付けて落ち葉がくれの術を使う。辛いので誰も採らない。食不適。

シロハツ

Russula delicata Fr.

RTMFU441; カサはジョウゴ型で落ち葉をいっぱいおせている。食べられるというが辛いので、食べる人はほとんどいない。食用。

アンズタケ科

ヒナアンズタケ

Cantharellus minor Peck

SSC; アンズタケに似るがずっと小さい。美味しいと言われているが、まだ食べたことがない。食べるほどないのだ。食用。

シロソウメンタケ科⁵

フキガマホタケモドキ

*Pistillaria petasitidis*⁵

RTMFU423; フキが枯れて黒くなった柄につく。白く小さなバットを立てたようだ。小人なら擦りおろしてトロロがわりにするだろうか。食毒不明。

ホウキタケ科

ホウキタケ

Ramaria botrytis (Pers.: Fr.) Ricken

RTMFU431; 針葉樹林で採集。とても美味しい。柄は白いが先端は淡紫色か淡紅色で美味しい。食用ゲー。

イボタケ科

(和名なし)

Hydnellum ferrugineum (Fr.:Fr.) Karst.

RTMFU425; スイスのキノコ図鑑の裏表紙に写真が出ていた。こんなキノコが日本にもあるのかと思っていたが、利尻島にあって驚いた。幼菌のう

ちは赤ワインのような液をつけている。食不適。

多孔菌科

アイカワタケ

Laetiporus sulphureus (Fr.) Murrill

RTMFU433; マスタケなんか美味しくない、という人がある。料理法か好き嫌いのせいかと思っていたが、香り、菌触りが全然違うことがわかり、本種と間違えて食べていたようだ。食不適。

モミサルノコシカケ

Phellinus hartigii (Allesch. et Schnabl.) Imaz.

SSC; トドマツにしか付かない。この菌が付くと、樹の幹は縦に長くへこみ(溝腐)丸い感じのキノコを作る。食不適。

アシグロタケ

Polyporellus badius (Pers. ex S. F. Gray) Imazeki

RTMFU449; 表皮は薄く皮に似て固くて食べられないが、「ダシ」にするとどんなダシにも負けない。ダシキノコ。

アミヒラタケ

Polyporus squamosus Fr.

RTMFU412; 標本化失敗。幼菌は非常に美味しい。広葉樹の枯木(ヤチダモ、オヒヨウ、イタヤなどに多い)に古いバイクのイスに似た格好で重生する。食用。

スッポンタケ科

シマイヌノエフデ

Jansis boninensis (Fisch.) Lloid

SSC; キツネノロウソクに似ているが、柄は白いだけで変わりはない。どちらも白い玉から出てくるが、一日中立っていないで午前中で朽ちる。食毒不明。

シロキクラゲ科⁵

ロウタケ

*Sebacina incrustans*⁵

RTMFU429; 草の根元にクズカキをまぶしたような、キノコらしくないキノコである。食毒不明。

ノボリリュウタケ科

シャグマアミガサダケ

Gyromitra esculenta (Pers.) Fr.

RTMFU406; 頭部は脳みそ状で気持ちが悪い。桜の花が咲く頃、トドマツ林に出るが、猛毒なのでくれぐれも食べないで下さい。

ノボリリュウ

Helvella crispa (Scop.) Fr.

RTMFU464; 白い龍が空にかけのぼった姿を想像しての命名なのでしょうか。キノコのイメージのないキノコだが、油をきかせた料理が美味しい。針葉樹林地上。食用。

バツカクキン科⁵

エニワセミタケ

Cordyceps sp.¹¹

RTMFU438, 440; 頭部がツノ状になっているのはまだ幼菌かと思われる。薬用。

ハチタケ

*Cordyceps sphecocephala*⁵

RTMFU424; 吉村正志氏(利尻富士町)採集。頭部が3 mm 以下位のものをよく見つけたものだと感心する。頭部は耳かき型。薬用。

クロサイワイタケ科

マメザヤタケ

Xylaria polymorpha (Pers.) Grev.

RTMFU434; 広葉樹朽木上にポツポツと出るのが、食べられない。が、幸いが訪れるかも……。食毒不明。

参考文献

- (1) 今関六也・本郷次雄、1987. 原色日本新菌類図鑑(I). 保育社.

- (2) 今関六也・本郷次雄、1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社.
- (3) 五十嵐恒夫、1988. 北海道のキノコ. 北海道新聞社.
- (4) 五十嵐恒夫、1993. 続 北海道のキノコ. 北海道新聞社.
- (5) 本郷次雄、1994. 山溪フィールドブックス 10 きのこ. 山と溪谷社.
- (6) 前田一步園財団、1997. 阿寒国立公園のキノコ. 前田一步園財団調査研究報告 14.
- (7) 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄、1988. 山溪カラー名鑑 日本のきのこ. 山と溪谷社.
- (8) 大谷吉雄、1989. 日本産盤菌綱菌類目録と文献. 横須賀市博研報 [自然]、37:61-81.
- (9) 菊原伸夫、1987. 日本産ヒダナシタケ類の分類. 199pp. 生地研.
- (10) Phillips, R., 1985. Mushrooms and Other Fungi of Great Britain and Europe. Irish Book Center
- (11) 清水大典、1994. 原色冬虫夏草図鑑. 盛文堂新光社.

訂正

前号の報告に対して、以下のご指摘があった。ここに慎んで訂正したい。本郷次雄先生からはクロニガイグチは苦味がない南方系の種で、利尻産のものは別種の可能性が高いとご指摘を受けた。よって再検討を要する標本として、前回のクロニガイグチ(RTMFU329)を未同定種として保留したい。また、上田俊穂先生からは学名の訂正を受けた。アカモミタケは *Lactarius laeticolor* に、オキナクサハツは *Russula senis* に訂正する。両先生のご指摘、心より感謝したい。